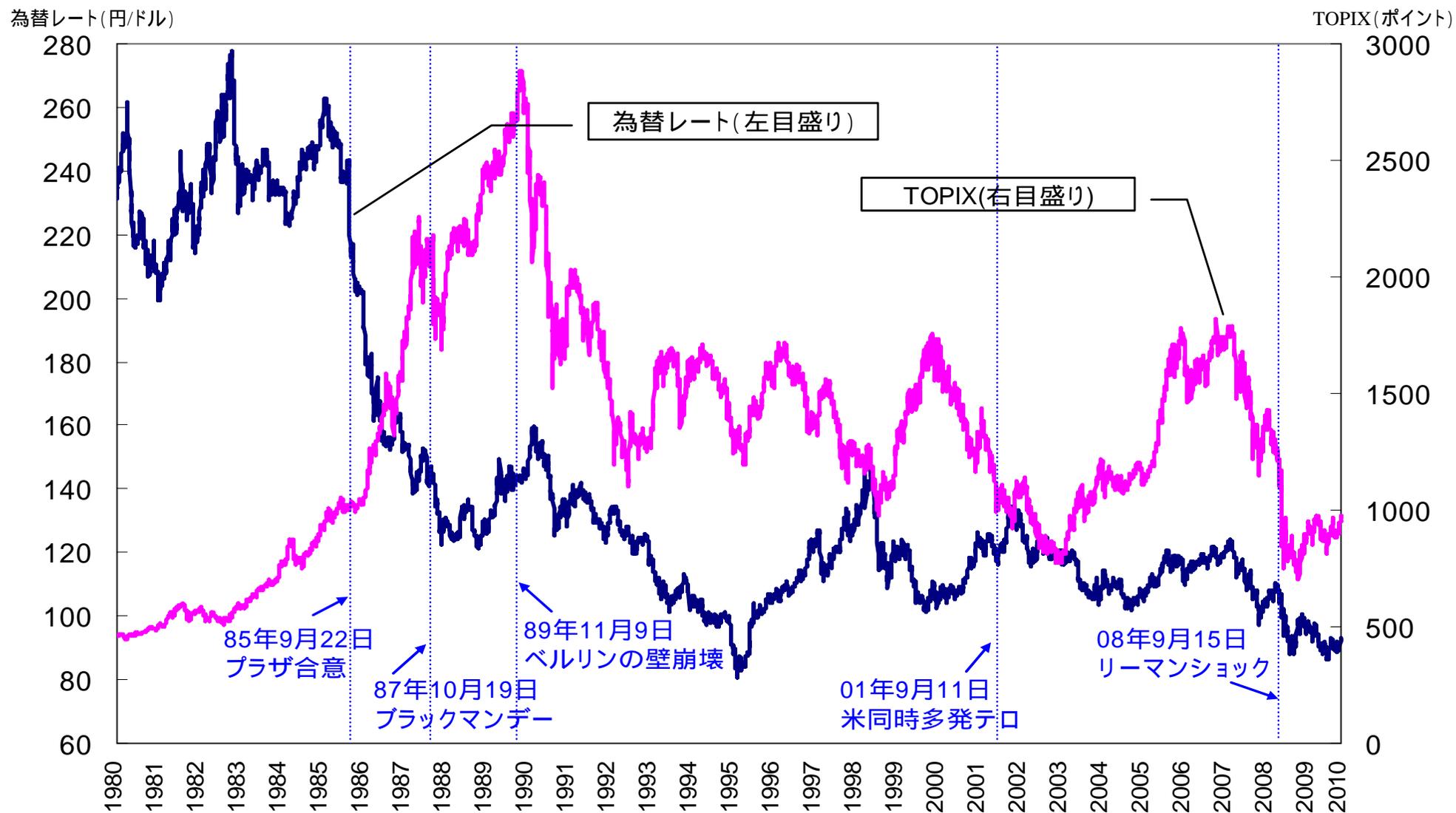


我が国証券市場の現状と東証の取組み

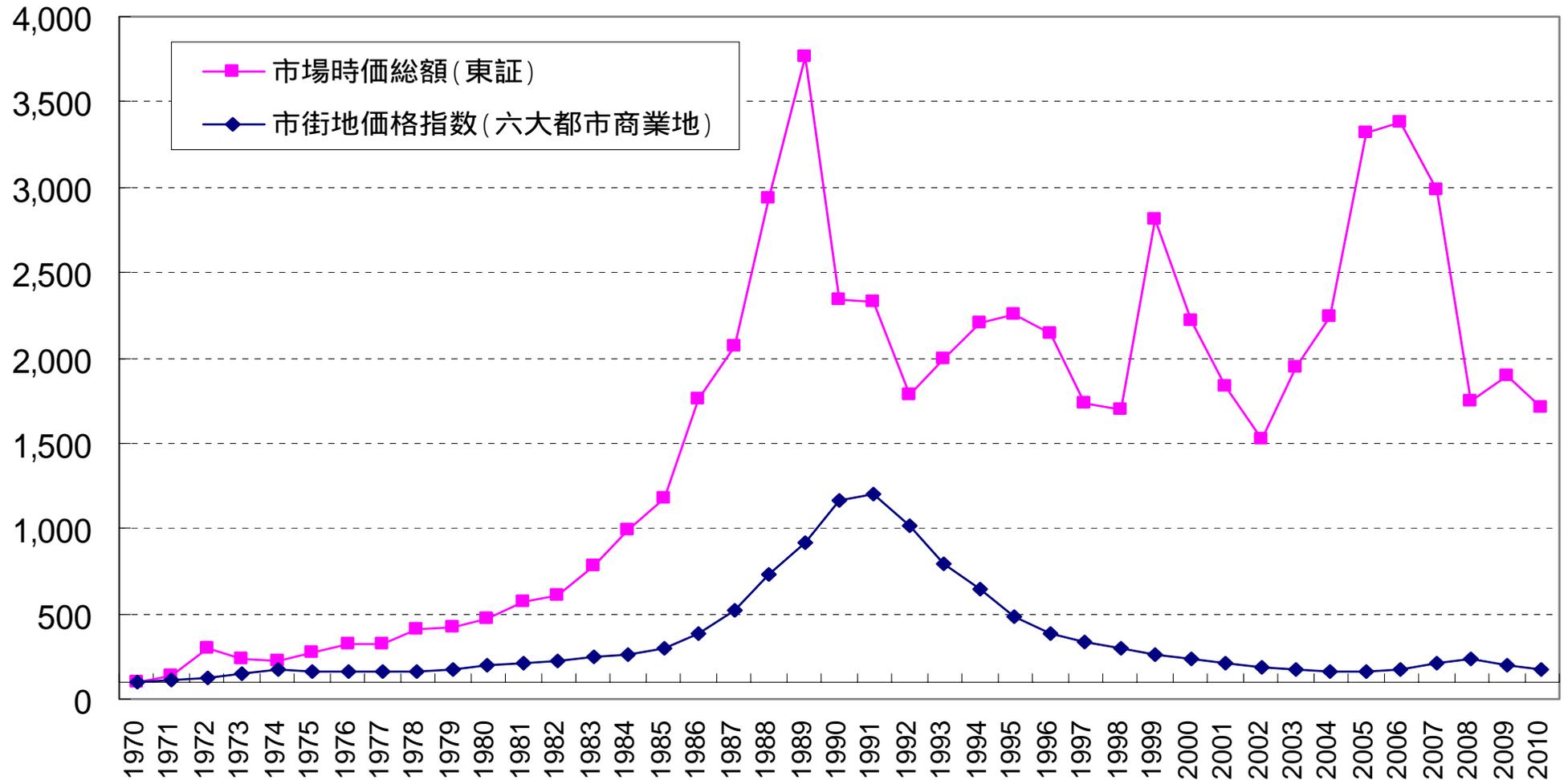
2010年10月
東京証券取引所

1. 我が国証券市場を取り巻く状況

1. 株価・為替の推移



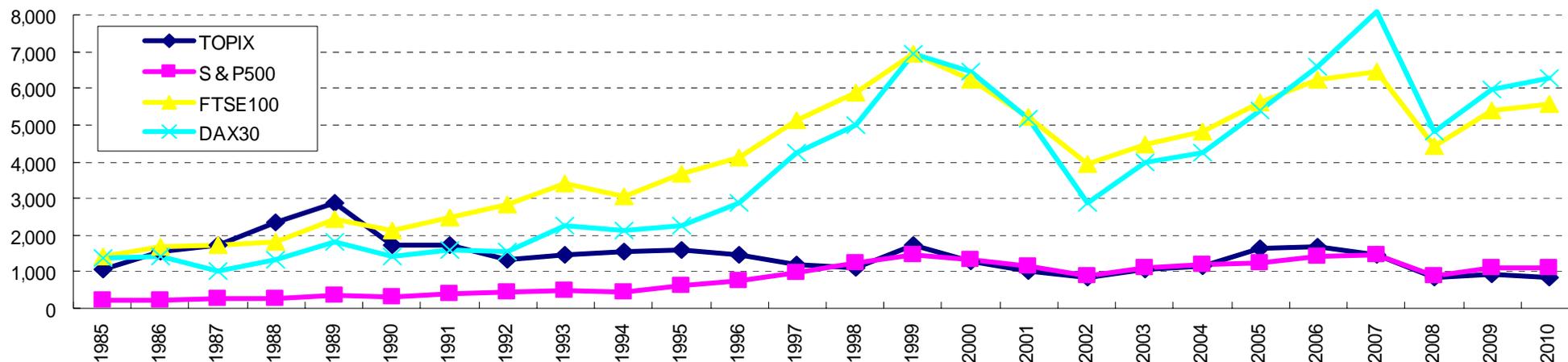
2. 不動産価格・市場時価総額の推移(1970年=100)



(注)1970年 = 100として指数化

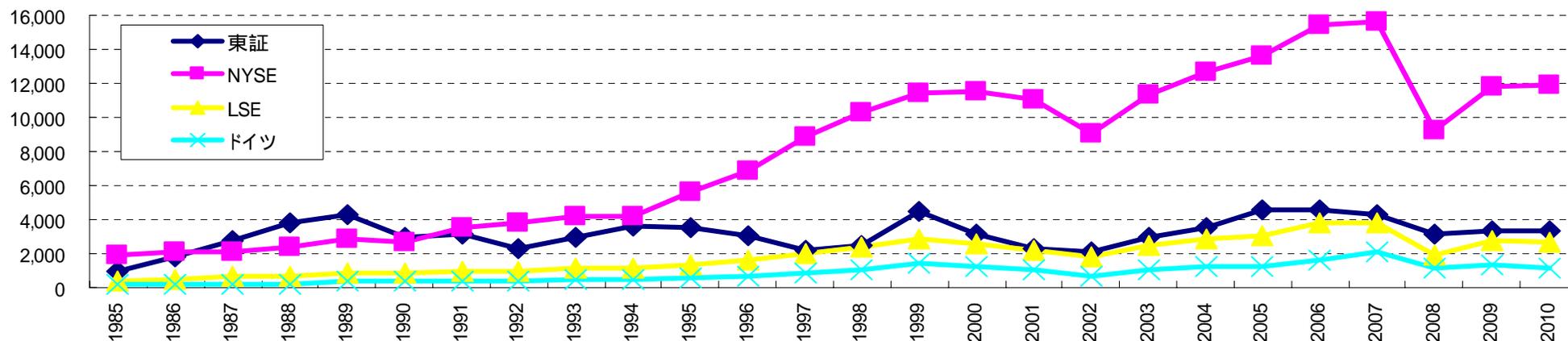
3. 主要市場における株価指数・市場時価総額の推移

株価指数の推移



市場時価総額の推移

(10億ドル)



4. 東証市場の現状

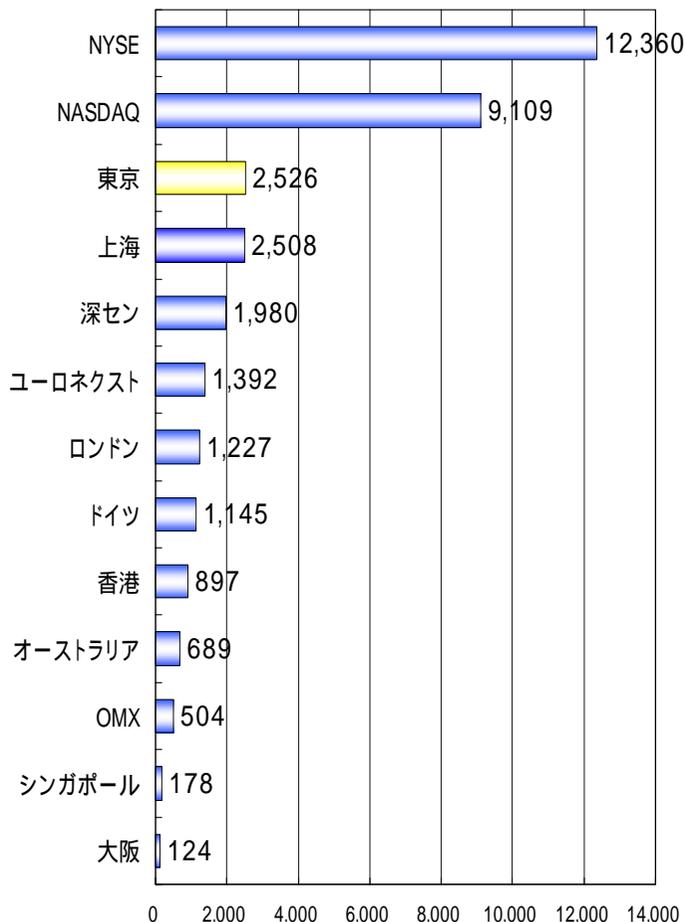
時価総額（平成22年8月末）

（単位：10億米ドル）



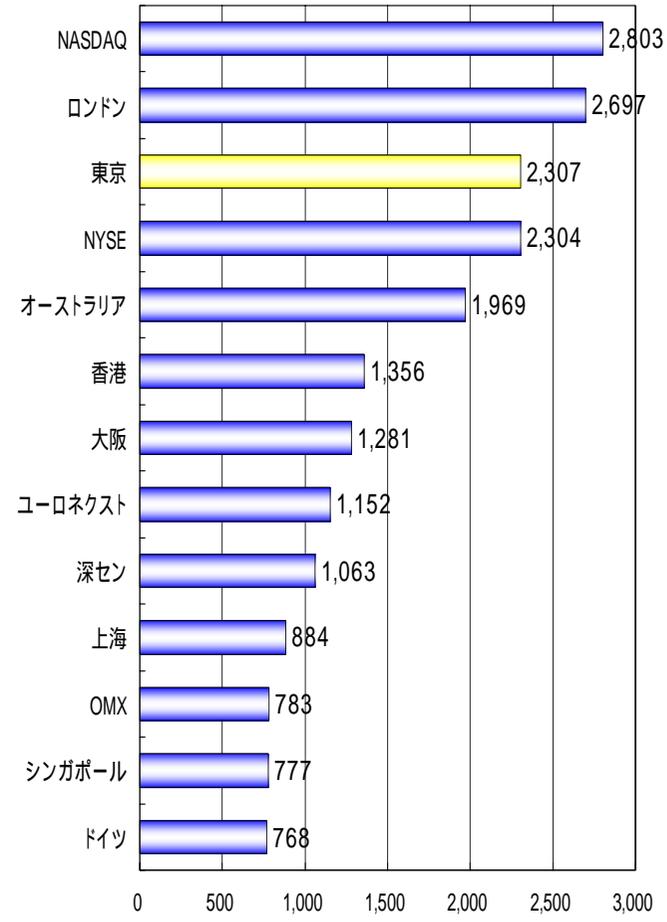
売買代金（平成22年1月～8月）

（単位：10億米ドル）



上場会社数（平成22年8月末）

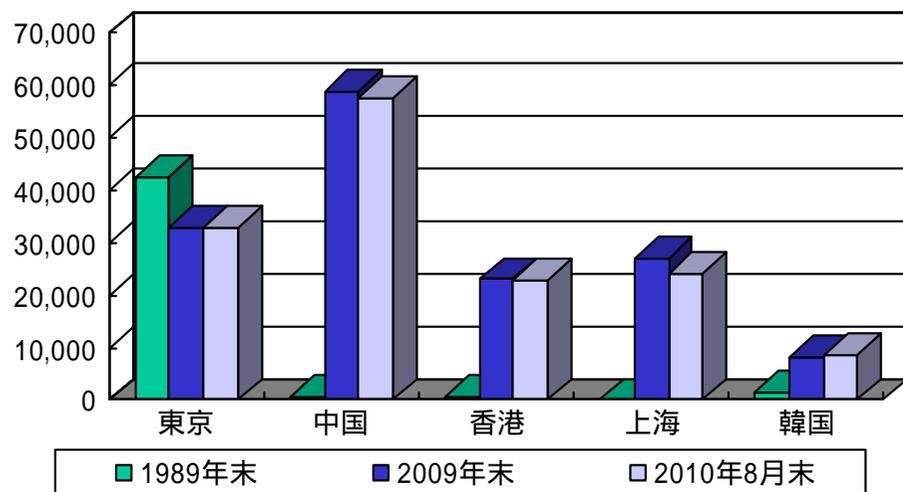
（単位：社）



5. 東証市場とアジア主要市場との比較

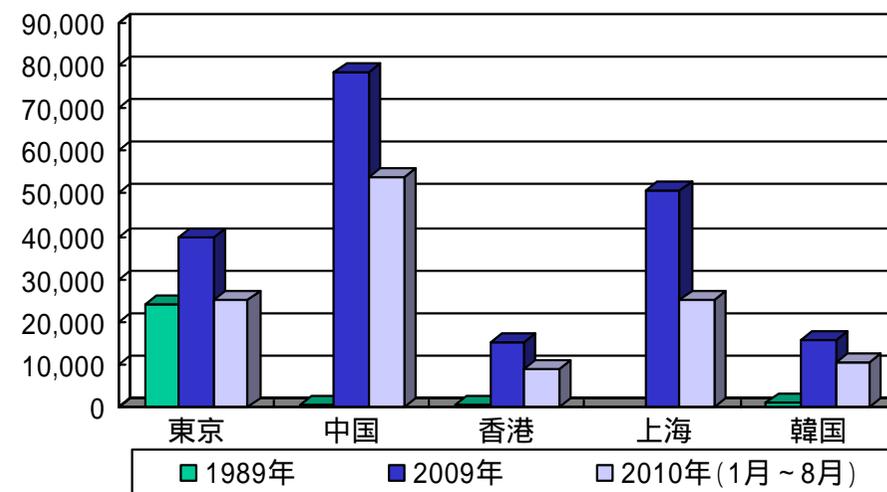
時価総額

(単位: 億米ドル)



売買代金

(単位: 億米ドル)

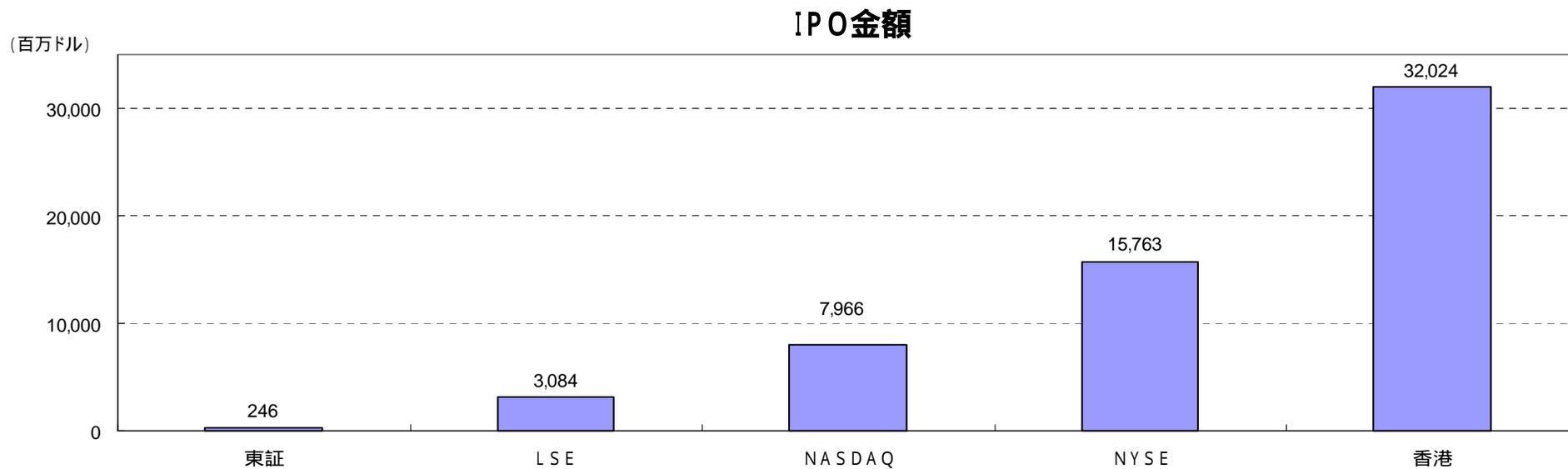
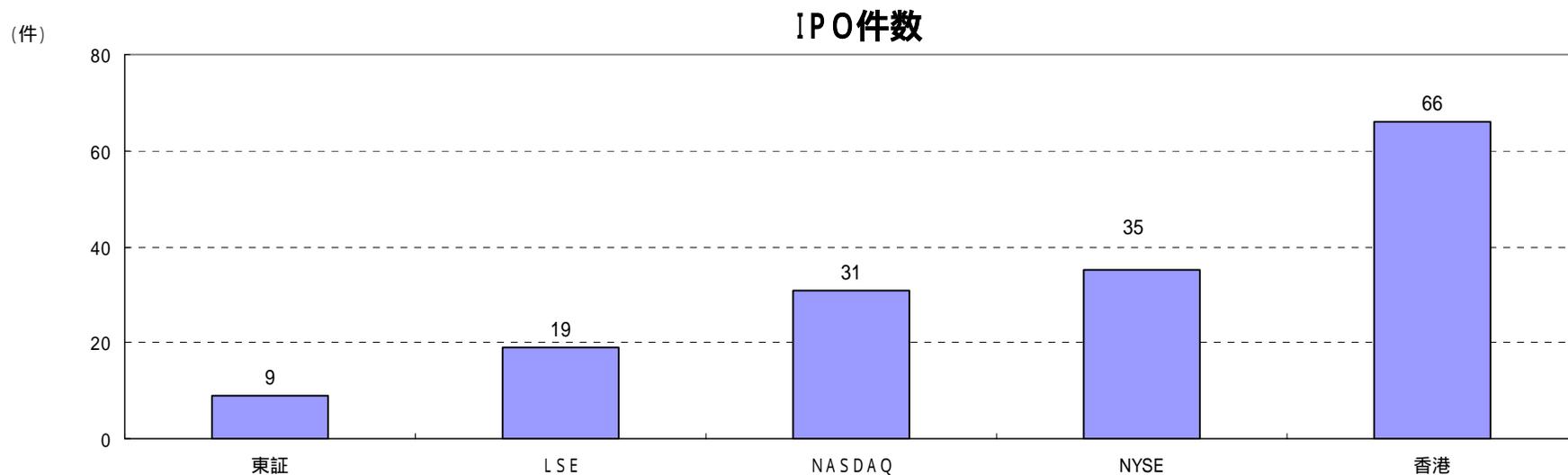


| | 1989年末 | 2009年末 | 2010年 (8月末) |
|----|--------|--------|----------------|
| 東京 | 42,604 | 33,061 | 33,098 |
| 中国 | 788 | 58,783 | 57,582 |
| 香港 | 776 | 23,051 | 23,043 |
| 上海 | 2 | 27,048 | 24,003 |
| 韓国 | 1,405 | 8,346 | 8,728 |

| | 1989年末 | 2009年 | 2010年 (1月~8月) |
|----|--------|--------|------------------|
| 東京 | 24,312 | 39,878 | 25,257 |
| 中国 | 476 | 78,363 | 53,844 |
| 香港 | 346 | 15,017 | 8,967 |
| 上海 | | 50,620 | 25,077 |
| 韓国 | 1,209 | 15,752 | 10,271 |

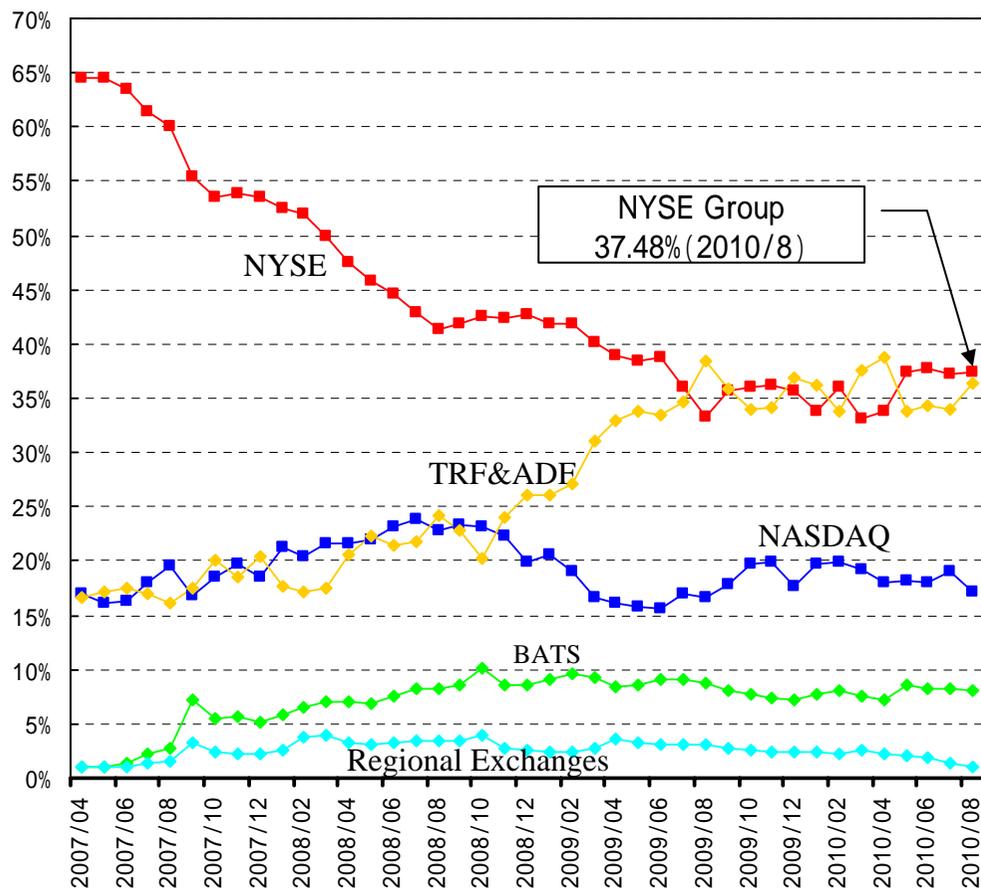
(注) 中国市場は、香港・上海・深センの合計。(中国市場の1989年の時価総額は、設立時データ、売買代金は1992年。)

6. 主要市場におけるIPO実績(2009年)



7. NYSE・LSEの取引シェアの推移

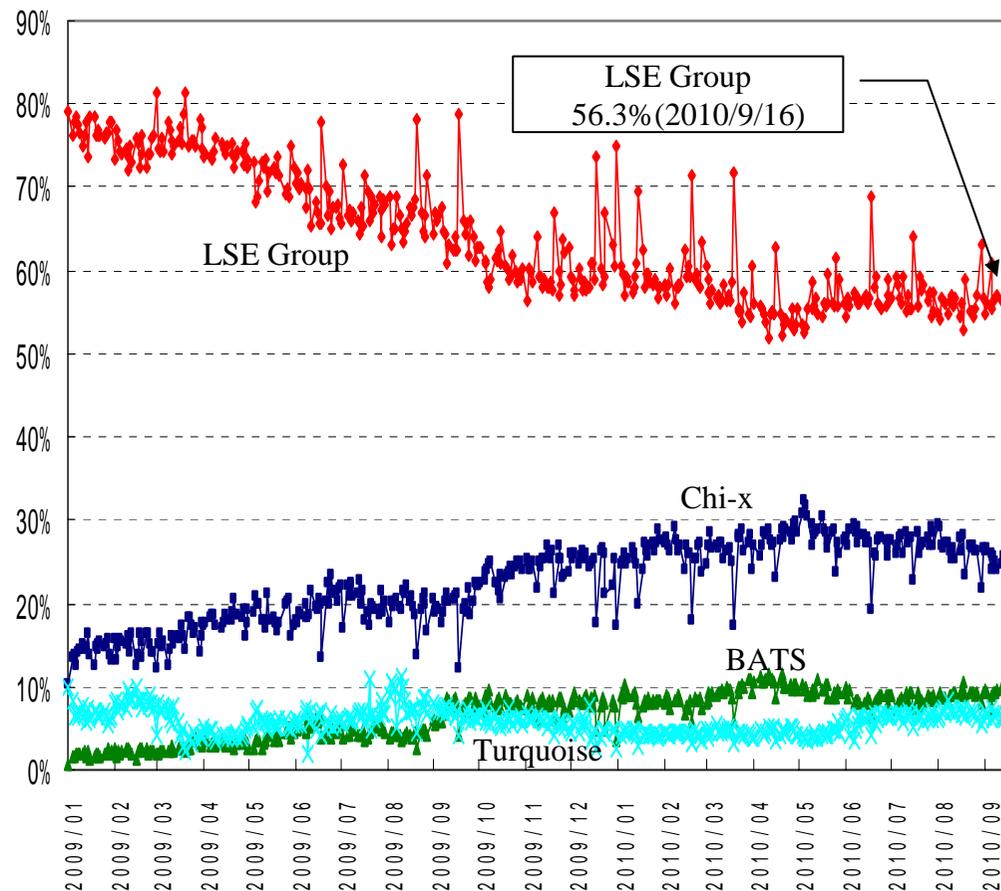
【NYSEの取引シェア(NYSE上場銘柄)】



(注) NYSEにはNYSEArca及びNYSE Amexを含み、
NASDAQにはNASDAQ OMX BX及びNASDAQ OMX PHLXを含む。

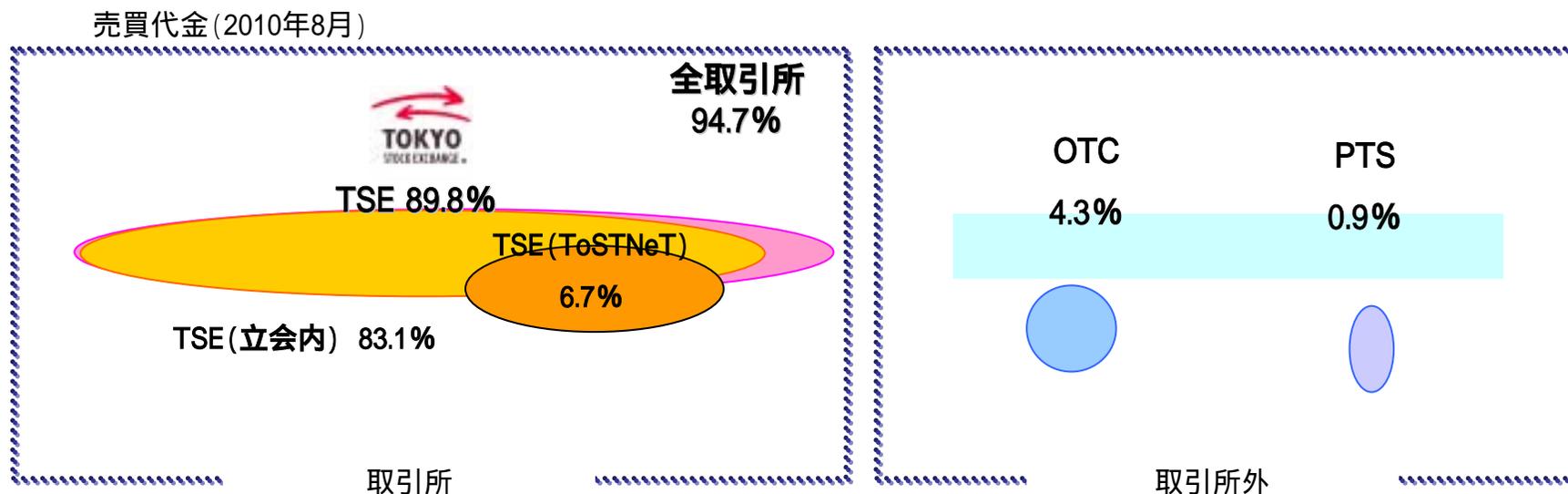
(出所) BATS Exchange

【LSEの取引シェア(FTSE100構成銘柄)】



(出所) BATS Europe

8. 金融商品取引所と取引所外取引の売買代金



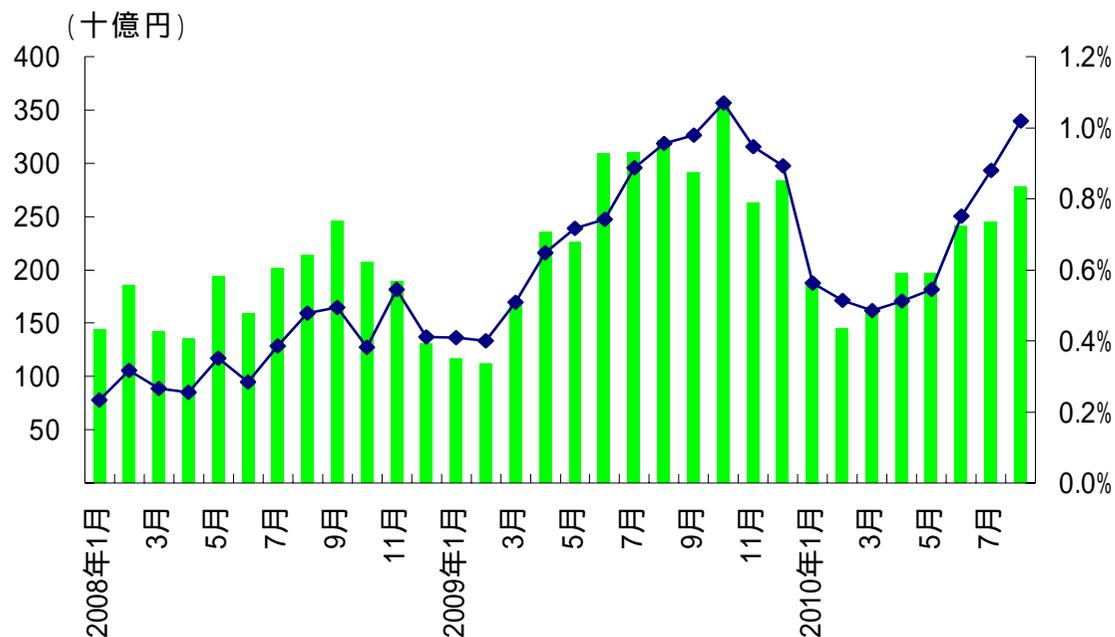
【各取引所と取引所外取引の比較】

(時価総額・銘柄数は2009年度末、売買代金は2009年度の年間)

| | 東証 | 大証 | 名証 | 福岡 | 札幌 | ジャスダック | 取引所外 |
|-----------------|--------------------|------------------|-------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
| 時価総額 | 330.2兆円 | 209.3兆円 | 128.0兆円 | 59.1兆円 | 51.2兆円 | 9.1兆円 | - |
| 上場銘柄数 | 2,299 | 949 | 351 | 131 | 86 | 876 | - |
| 売買代金 (立会外含む) | 383.2兆円 (89.8%) | 15.3兆円 (3.6%) | 713.5億円 (0.0%) | 59.0億円 (0.0%) | 31.4億円 (0.0%) | 3.7兆円 (0.9%) | 24.4兆円 (5.7%) |

9. 取引所外取引・PTSを巡る環境変化

Trading Value of PTS / Ratio of Exchange market



環境変化

- PTS 監督指針の改正 (2010年3月)
 - ・インターナルクロスと取引所立会外取引 (ToSTNeT) の利用
 - ・PTS における空売りの体制整備
- J S C C の清算取引開始 (2010年7月)

【気配情報等の公表措置】

取引所

会員等が取引所に注文を発注した場合、その他の者が当該注文に応じる余地がないもの(クロス注文)を除き、当該注文に係る銘柄・売買の別・価格・数量等を会員等に直ちに通知しなければならない(金融商品取引所等に関する内閣府令第74条、別表1)

PTS

株券等を取り扱うPTS業務について、当該システムの最良気配・取引価格等を、他の証券会社によるPTS業務と比較可能な形で即時に外部公表することを義務付け、これを認可の条件とする(私設取引システム(PTS)開設等に係る指針 H12.11.16)

2. 東証の取組み

10. 東証市場の特徴 ~ 現物から国債先物まで多様なアセットクラス

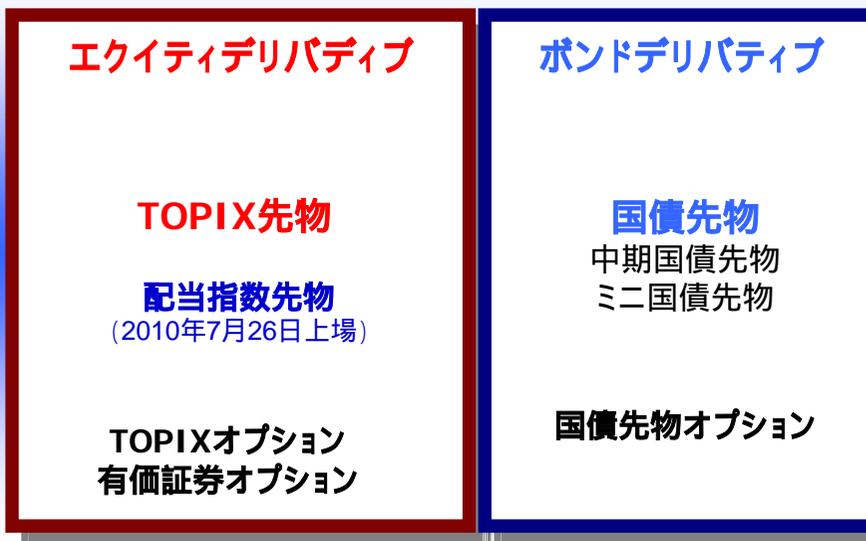
多様な投資対象商品

株式: **2,300超**
ETFs: **93** REITs: **37**

現物市場



派生商品市場



11. 東証市場の特徴 ~ 高い流動性

時価総額

277兆円 (2010年8月)

世界No. 2, アジアNo. 1

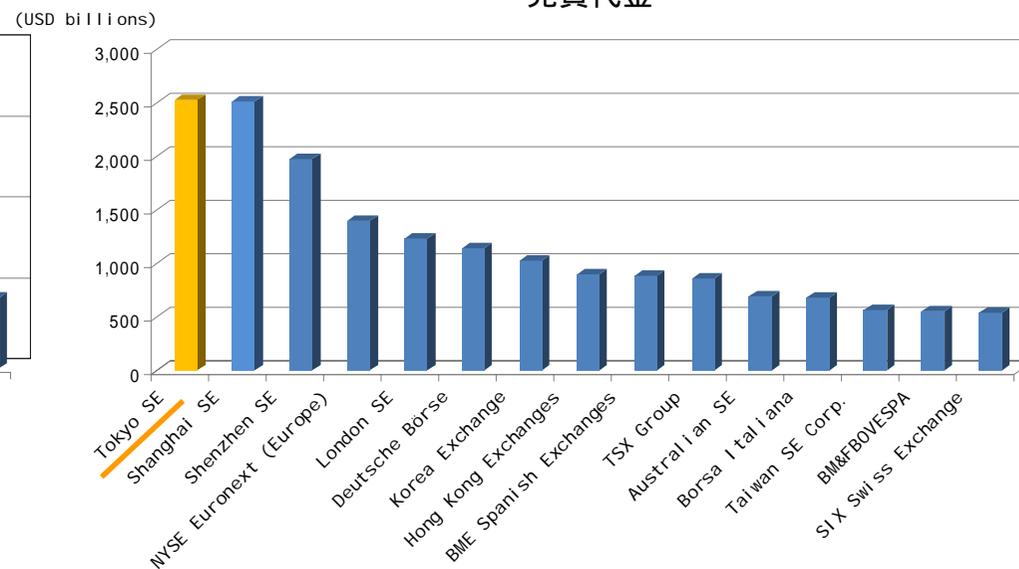
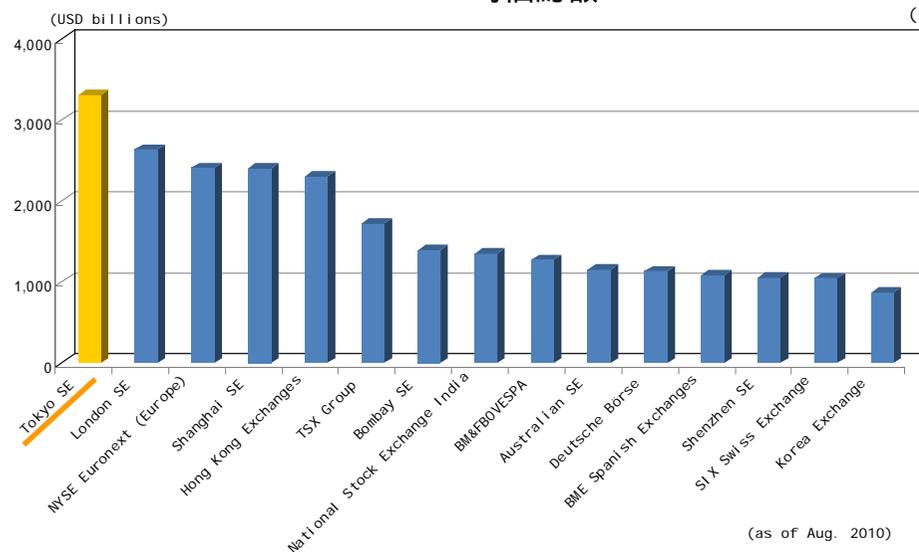
売買代金

226兆円 (2010年1月~8月)

世界No. 3, アジアNo. 1

時価総額

売買代金



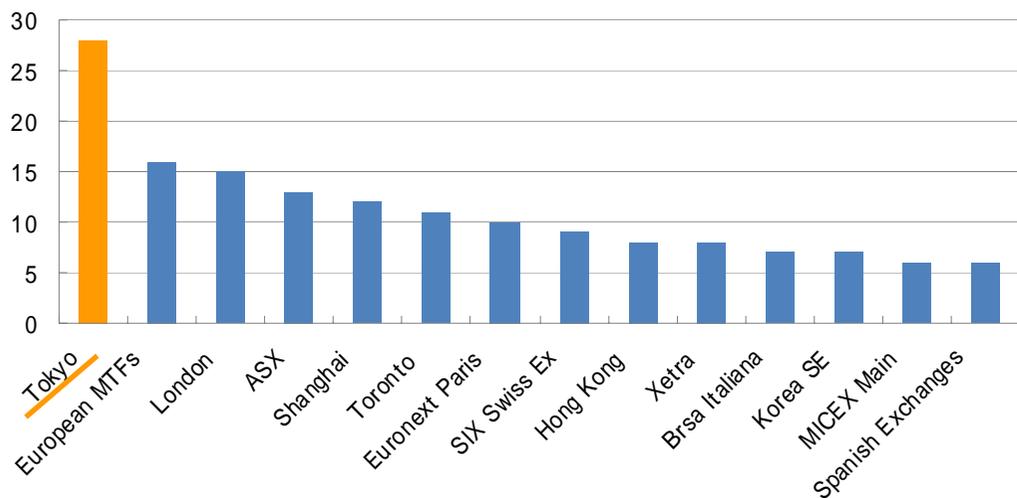
12. 東証市場の特徴 ~ 高い流動性

多くの高流動性銘柄
(*)

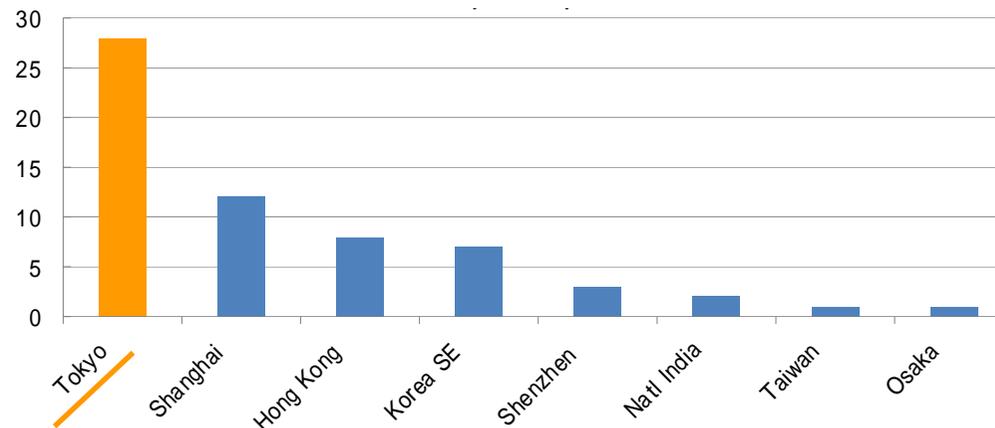
アジアNo. 1

* 一日平均売買代金が100万ドル以上の株式およびETF

高流動性銘柄数
(除く米国市場)



高流動性銘柄数
(アジア)



Feb. 20, 2010 – May 19, 2010

13. 市場の安定性と高速性

▶ ‘arrowhead’のローンチ

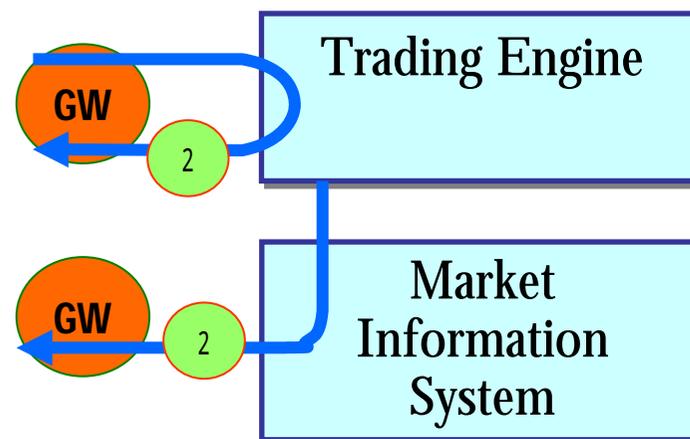
レイテンシーの改善

注文応答時間: **2.0** ミリセカンド

(参加者接続ゲートウェイに注文が入ってから、受付系通知を送信するまでの時間)

情報配信時間: **2.0** ミリセカンド

(トレーディングサーバで板に変化が起こってから、情報配信ゲートウェイから相場情報が出力されるまでの時間)



価格の連続性を確保

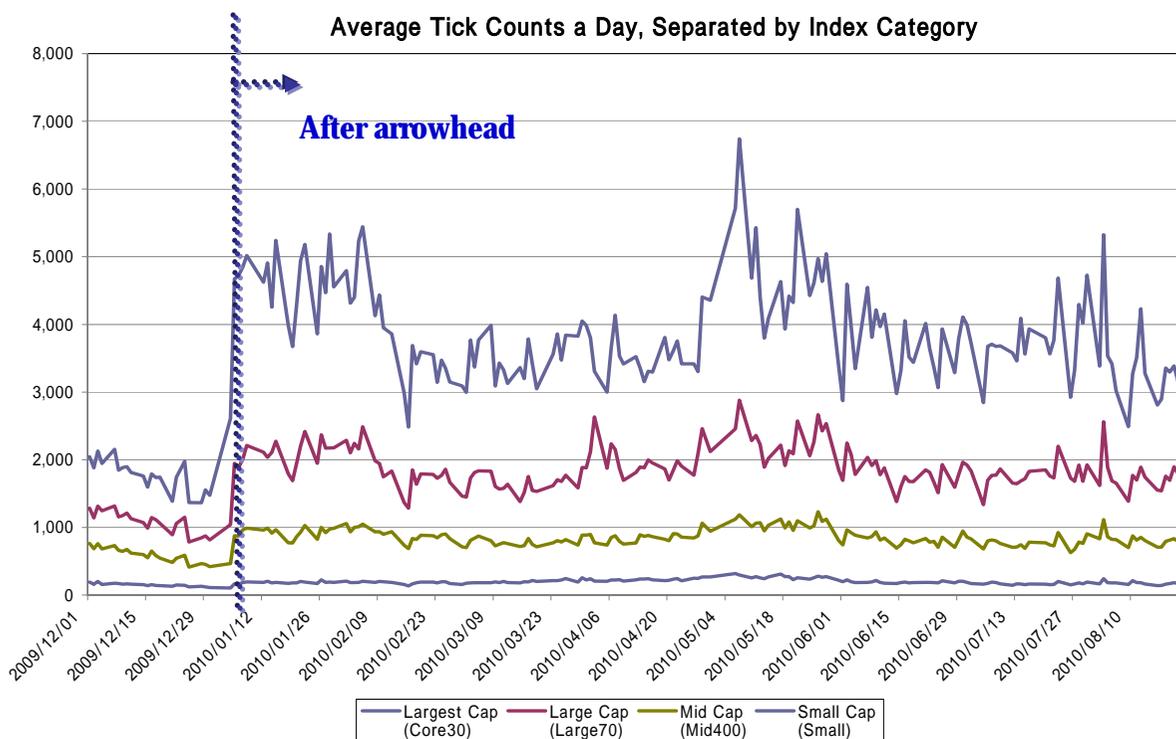
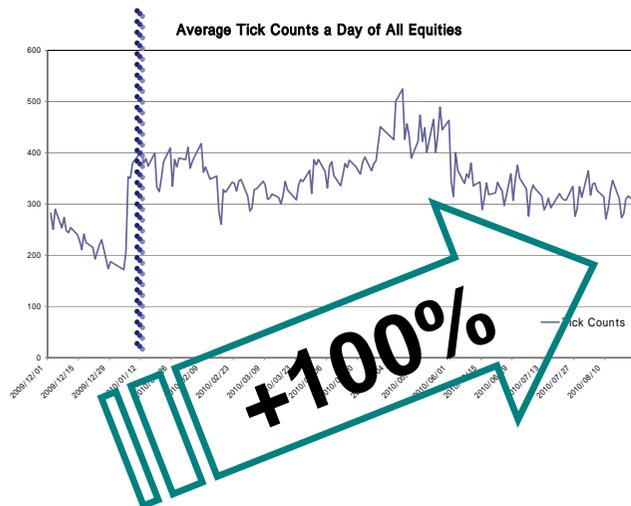
急激な価格変動を抑えるマッチングルールを採用

- 制限値幅
- 連続約定気配
- 特別気配
- サーキット・ブレーカー

14. ティック - arrowhead稼働後の変化 -

ティック数
の増加

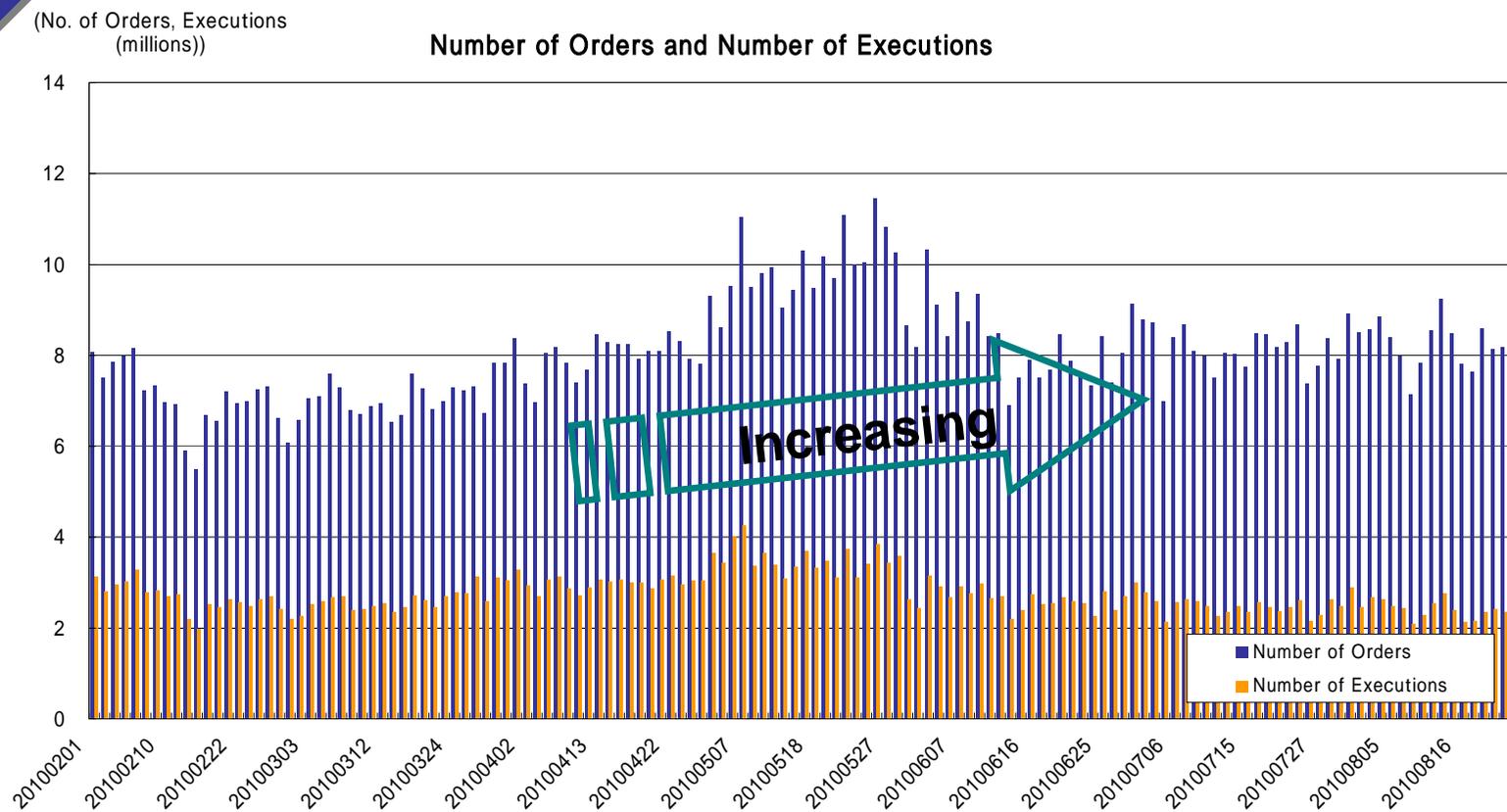
多くの銘柄群において、ティック数がおよそ2倍に



15 . 注文件数 / 約定件数 - arrowhead稼働後の変化 -

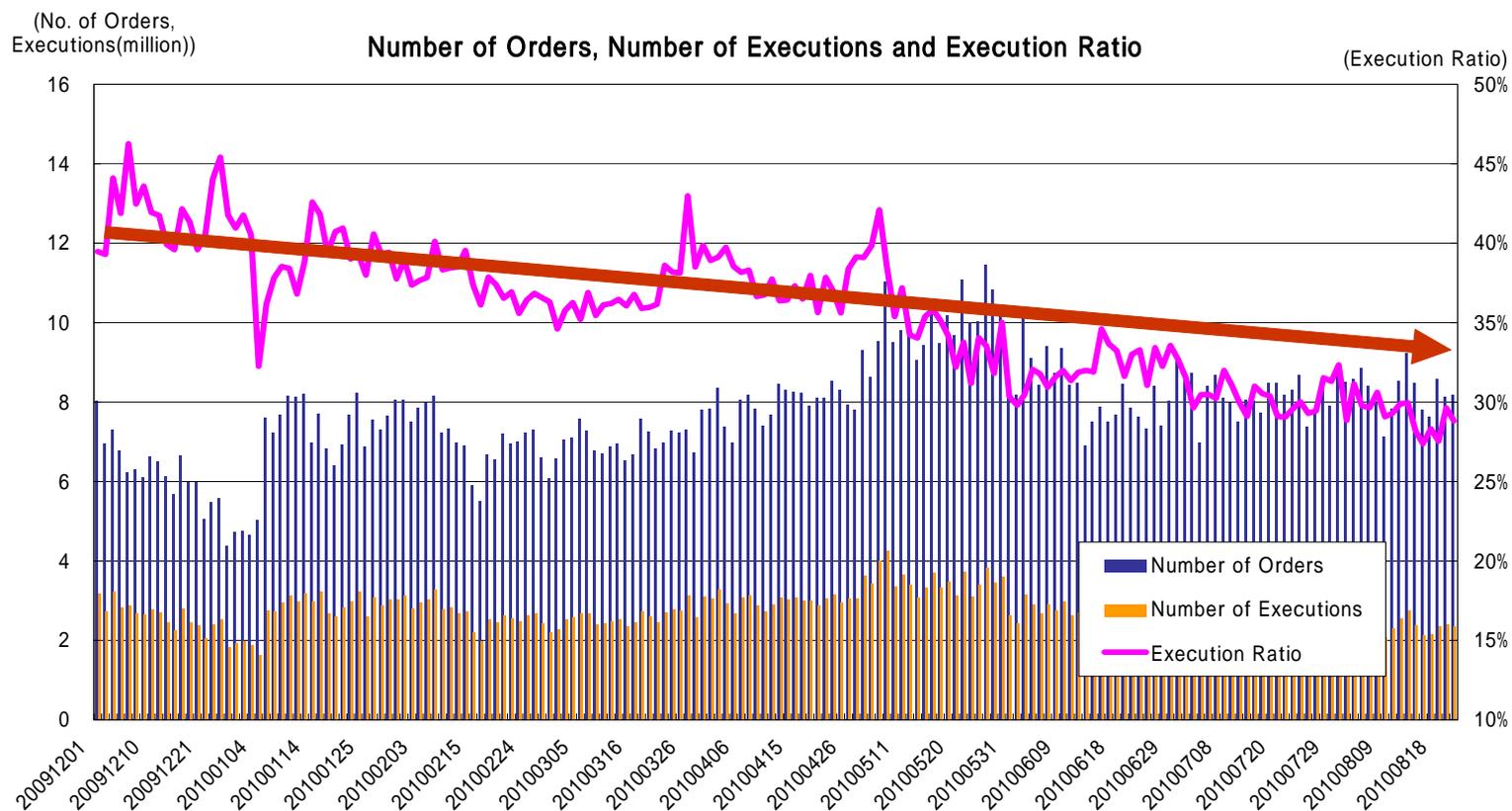
注文件数
の増加

堅調な注文件数の伸び



16 . 約定比率の推移 - arrowhead稼働後の変化 -

執行手法の多様化

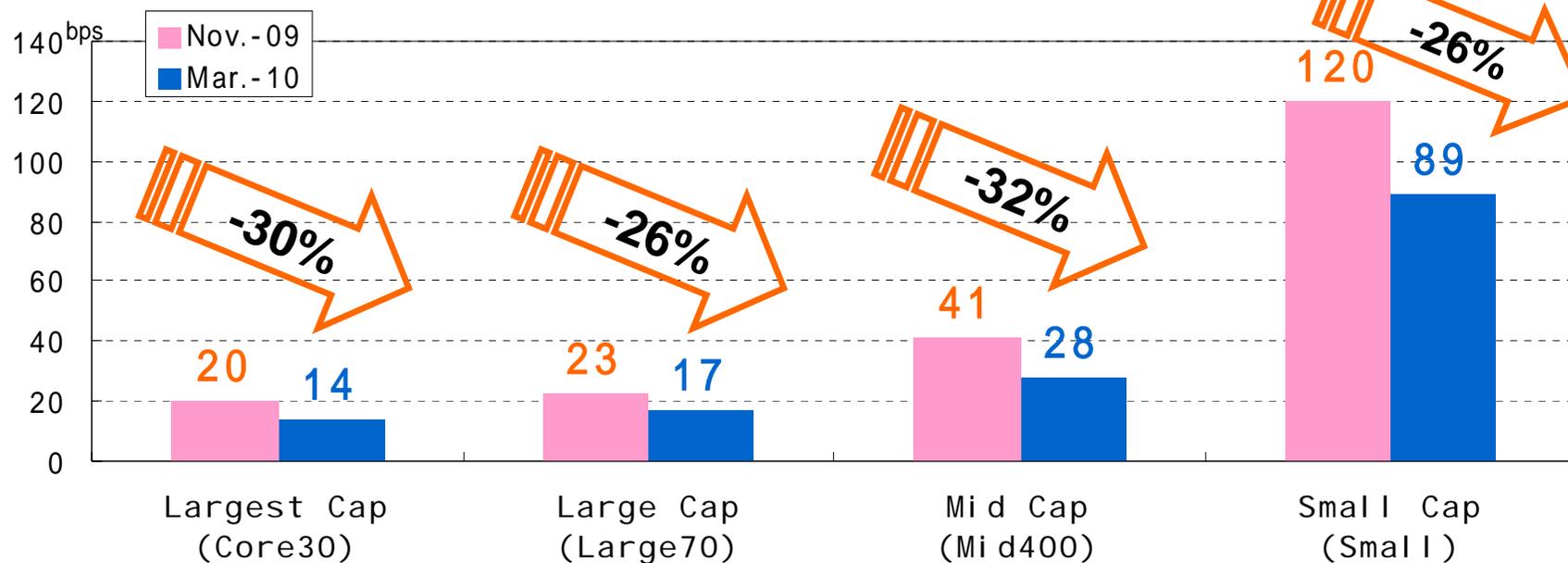


17. スプレッド - arrowhead稼働後の変化 -

スプレッド
の縮小

ビッドアスクスプレッドがおよそ**30%**縮小

Change in Bid-Ask Spread : Nov. -2009 vs. Mar. -2010



Bid-Ask Spread: Spread; between best bid and best ask.

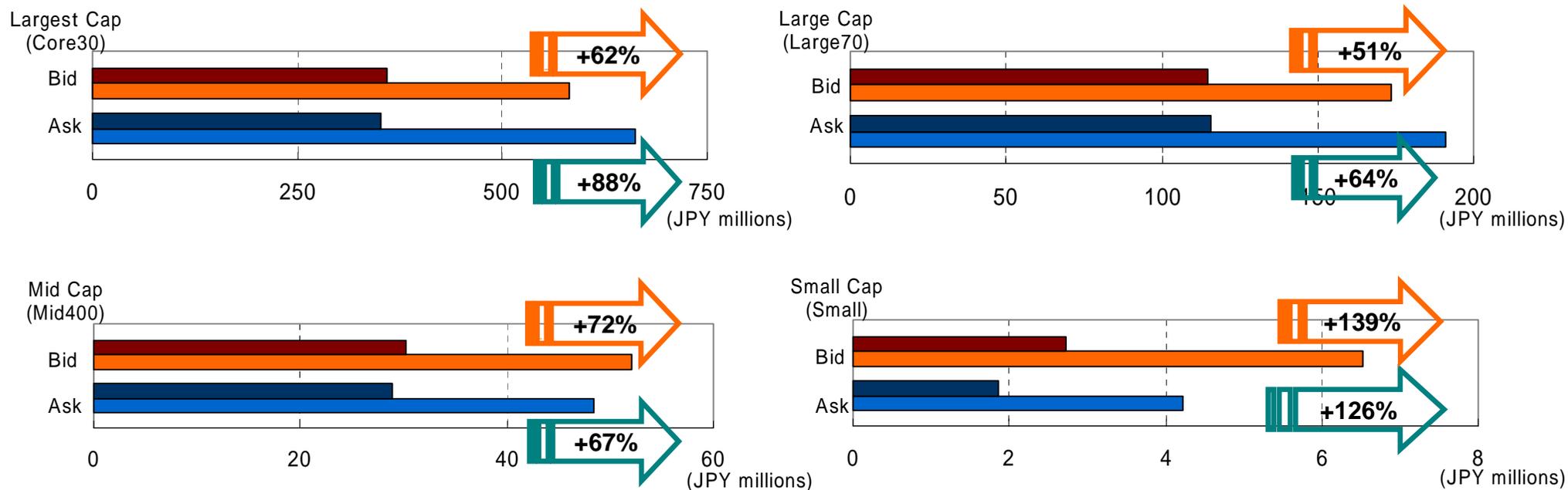
18. デプス - arrowhead稼働後の変化 -

デプスの増加

流動性の拡大

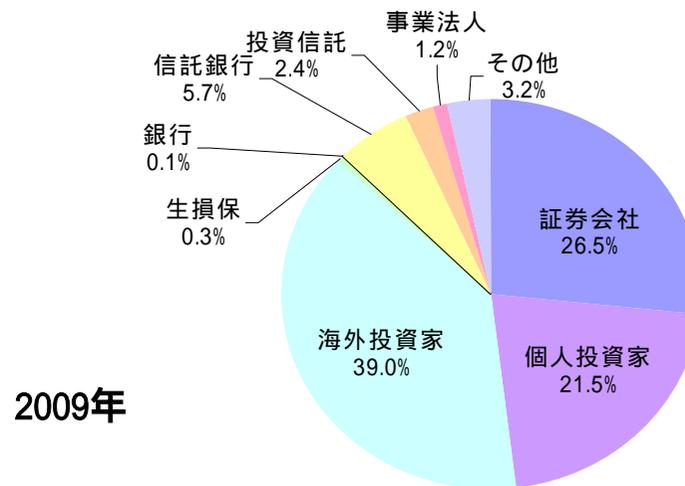
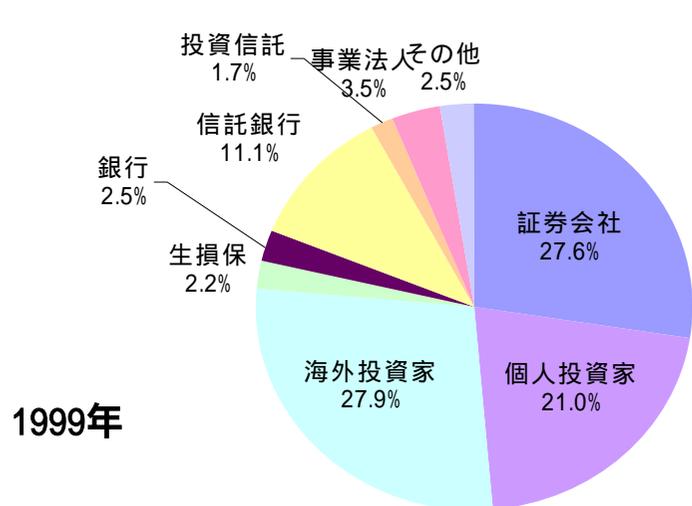
Depth: Nov.-2009 vs. Mar.-2010; within 50 bps from mid-price

■ Mar.-10 Ask ■ Nov.-09 Ask ■ Mar.-10 Bid ■ Nov.-09 Bid

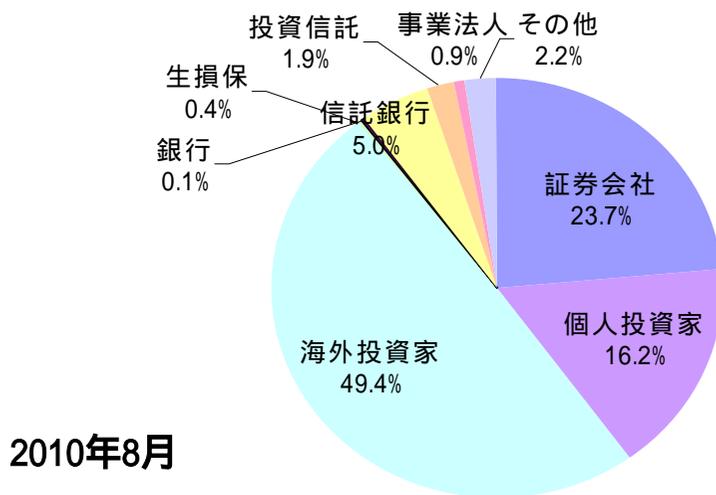


(出所) Tokyo Stock Exchange, Inc.; Depth is the total value of orders within 50bps of the BBO (number of orders × price)

19. 投資部門別売買動向推移 (売買代金ベース、1999年、2009年、2010年8月)



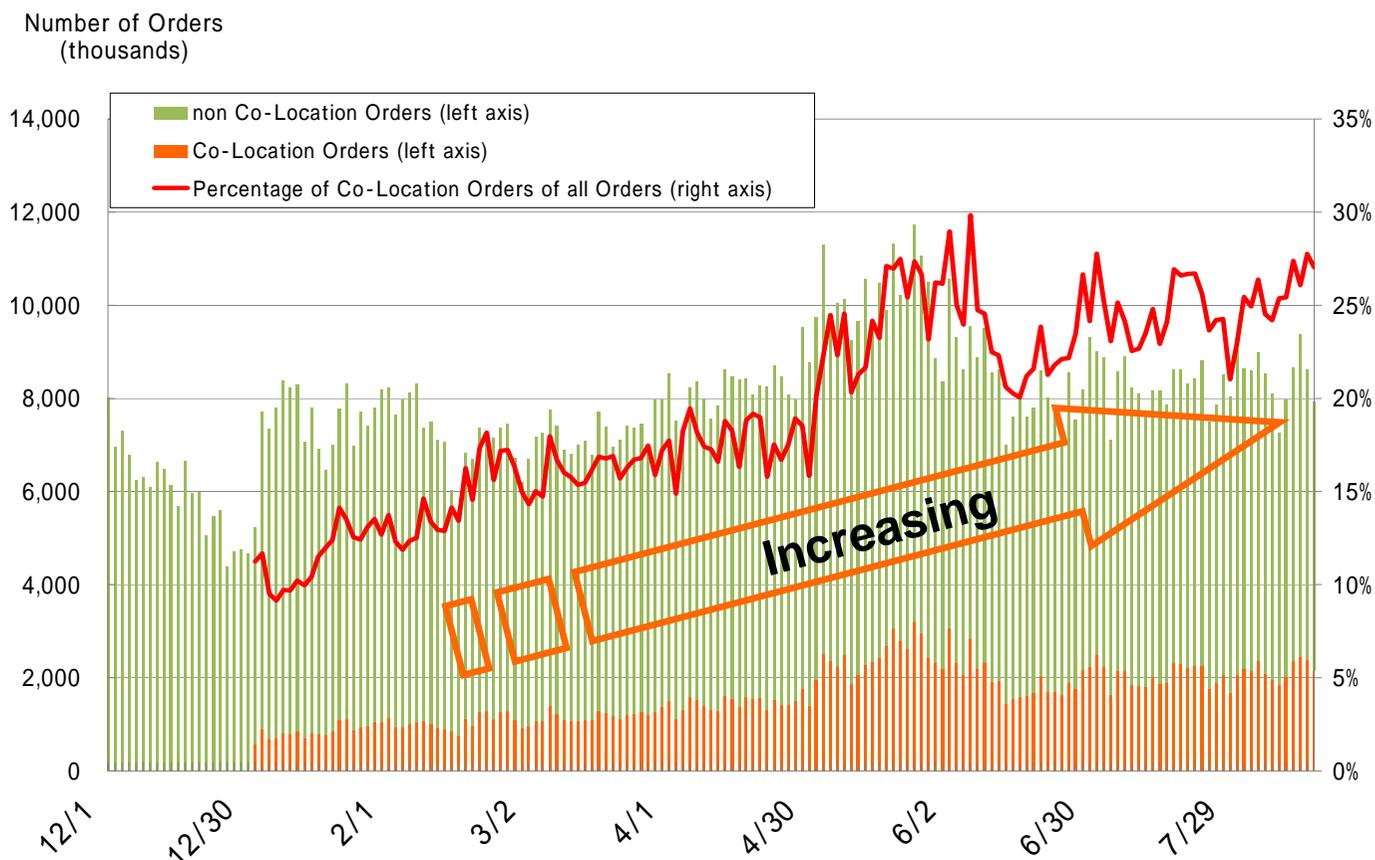
arrowhead稼働後



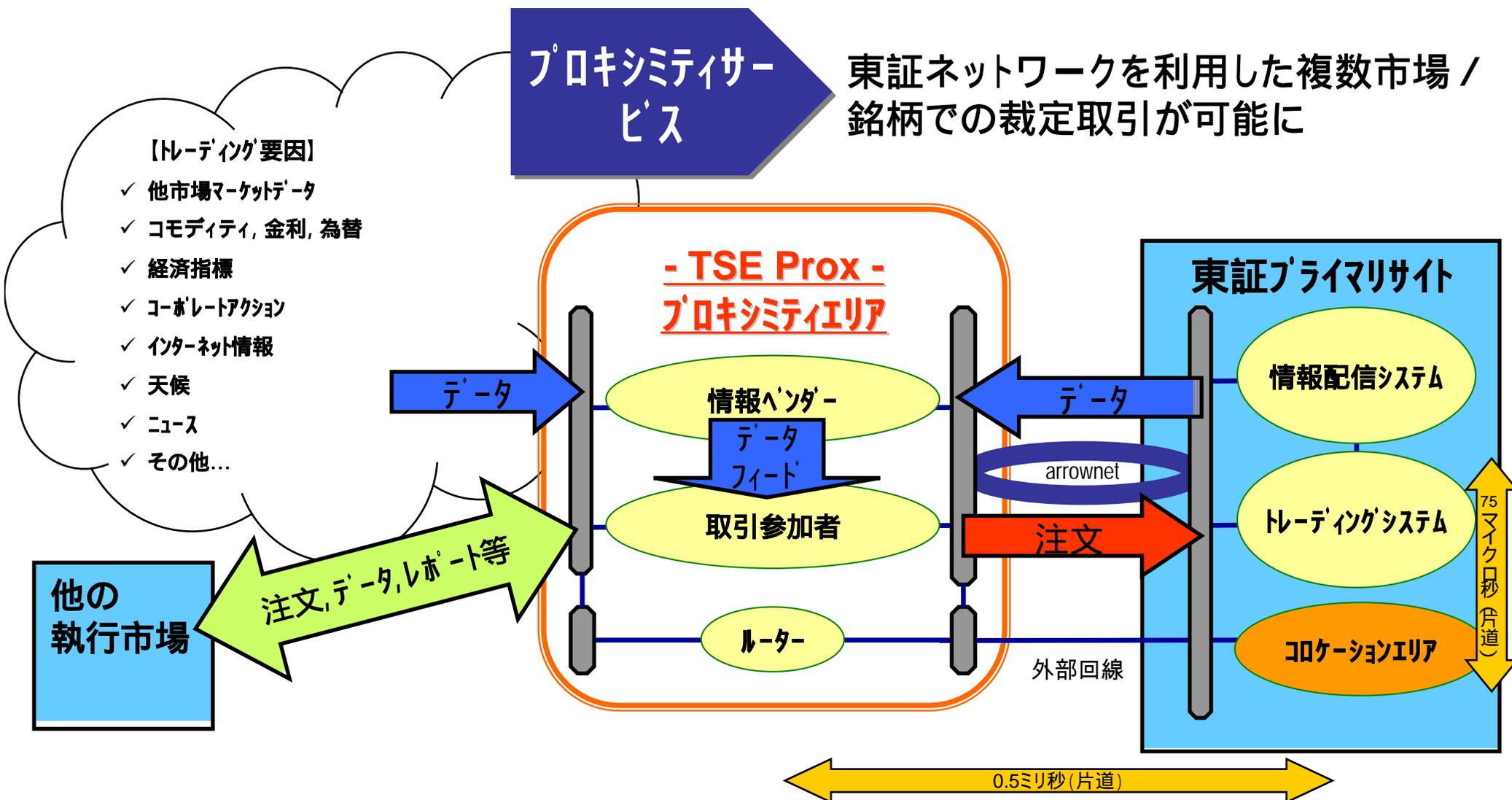
20. コロケーションからの注文比率 - arrowhead稼働後の変化 -

コロケーション
経由の注文増
加

堅調なコロケーションからの注文件数の伸び



21. プロキシミティサービス



22. オプション取引市場の抜本的改革“Tdex+”

【東証オプション取引市場の課題】

(指数オプション取引/有価証券オプション取引)

- ・「流動性がない」「投資家が参入できない」「流動性が改善されない」の悪循環
- ・活況を呈する海外市場の例をみても、銘柄数が膨大なオプションに流動性を供給するにはマーケットメイカーの存在が不可欠

(国債証券先物オプション取引)

- ・相次ぐマーケットメイカー、アルゴ投資家の参入は流動性の拡大を生む一方で、注文件数の急増など取引所システムに高い性能を要求



昨年10月5日、“Tdex+”スタート。一歩進んだ東証デリバティブ市場へ

【改善ポイント】

マーケットメイカー制度の導入

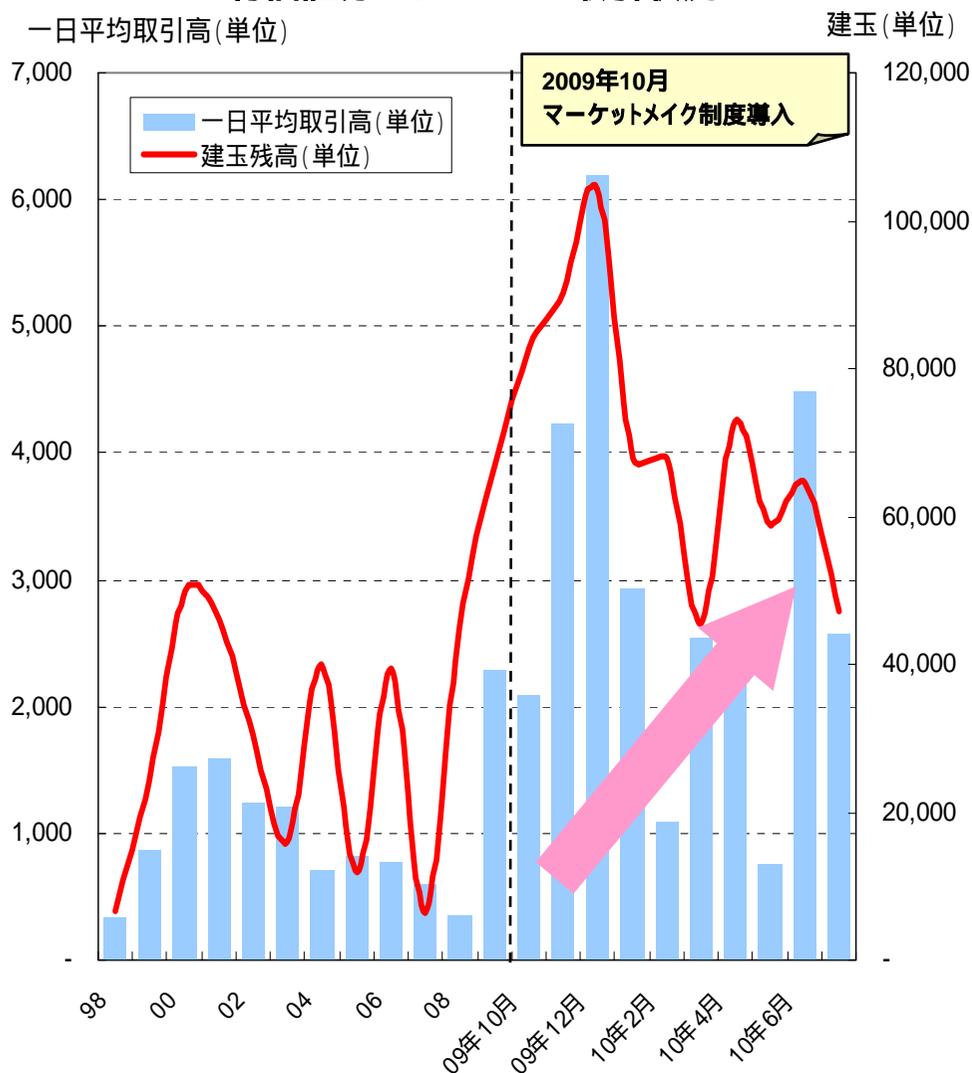
- TOPIXオプション、主要な有価証券オプションの銘柄について常時Ask/Bidを表示。投資家はいつでも売買可能に。
- 複数のマーケットメイカーがAsk/Bidを競うことによりタイトなスプレッドを実現
- ディープOTMやITMの銘柄についても気配提示要求 (**Request for Quote**)があれば、マーケットメイカーはそれに応答

新売買システム(LIFFE CONNECT®)の導入

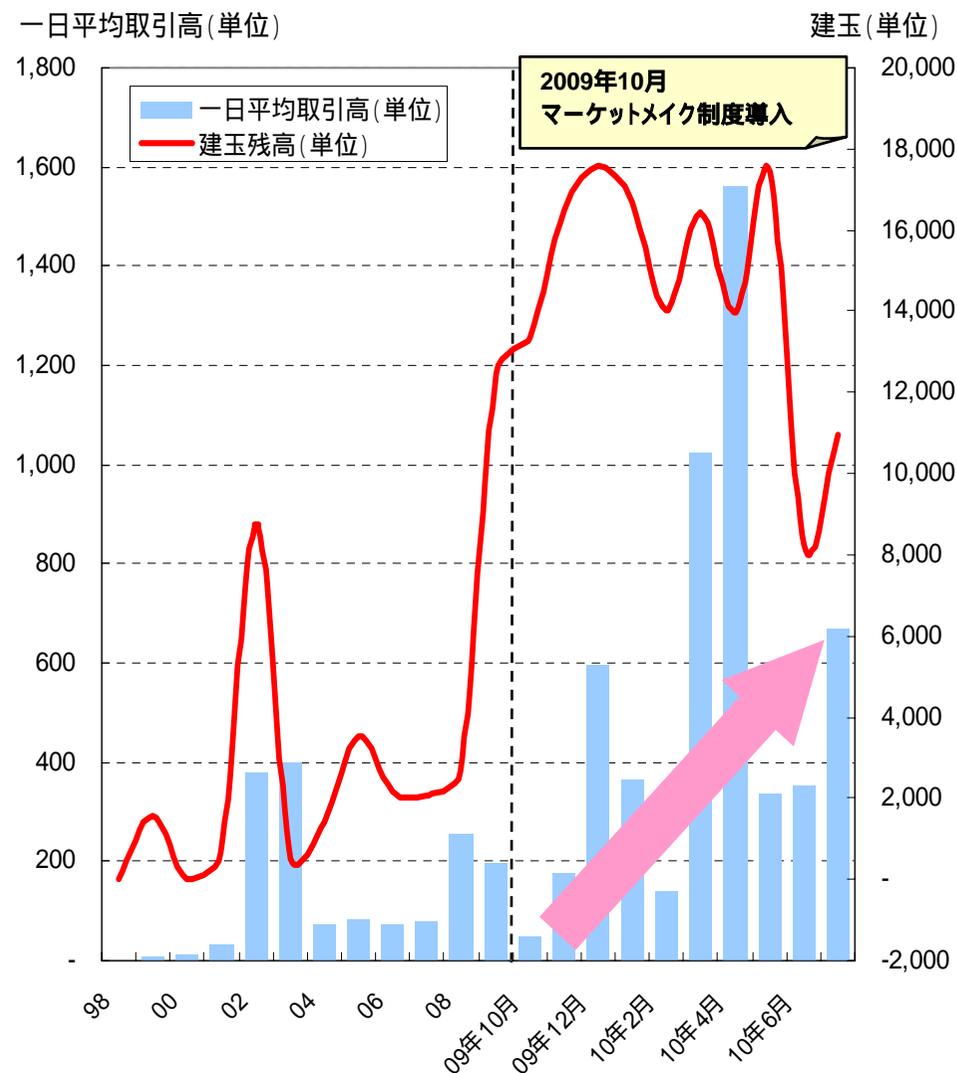
- 世界標準の注文処理性能(10ミリ秒未満での注文処理、膨大な注文キャパシティ)を実現
- **ストラテジー取引**機能(ストラドル、ストラングル、バタフライなど30種)を実装
- オプションと原資産を同時に取引する**デルタニュートラル**も可能

23. Tdex+システム稼働後の変化

有価証券オプションの取引状況



TOPIXオプションの取引状況



24. 配当指数先物取引の導入(2010年7月)

2010年7月26日 配当指数先物取引開始

(1) 受取り配当の変動リスクのヘッジ

- 保有ポートフォリオから得られる配当の減少を予想
配当指数先物で売りヘッジをすることによって、受取り配当額を売却価格×取引単位に固定

(2) 新たなアセットクラスの提供

- 日経平均・配当指数
- TOPIX配当指数
- TOPIX Core30配当指数

(3) 小口から取引可能

- SGXの10分の1サイズ

(4) 流動性の確保

- 配当指数先物取引サポートメンバー(ドイツ証券、野村証券、BNPパリバ証券)を指定
- 取引開始当初から高い流動性を提供予定

潜在市場規模

既にOTCでは人気商品

配当スワップは**1日平均数十億円**規模で取引。上場先物として取引することでカウンターパーティリスクを排除

日本株の配当額は**年間数兆円**規模

日本の株式市場は(まだ)世界最大規模。市場拡大の余地は非常に大きい

利用法

ヘッジ(配当収入の確定)

配当指数先物を売却することで、**支払い配当の減額リスクをヘッジ**

配当エクスポージャー

配当指数先物を買って建てることで、実際に株式を保有することなく**配当のみのエクスポージャー**をとることが可能

インプライド配当

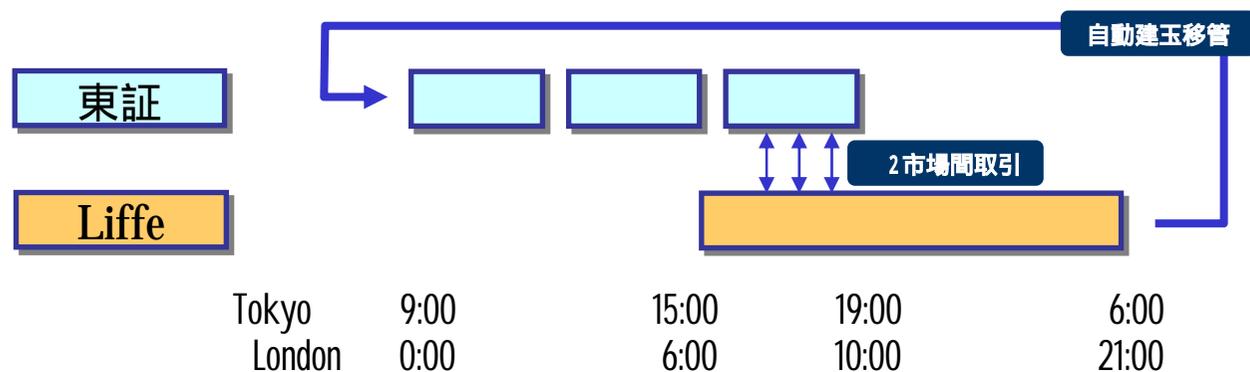
配当指数先物価格は将来の配当予測を織り込んで価格形成。先物価格を観察することで、**より正確な配当予測の情報**が取得可能

25. TOPIX先物取引のLiffeへの上場(2010年10月)

取引時間拡大

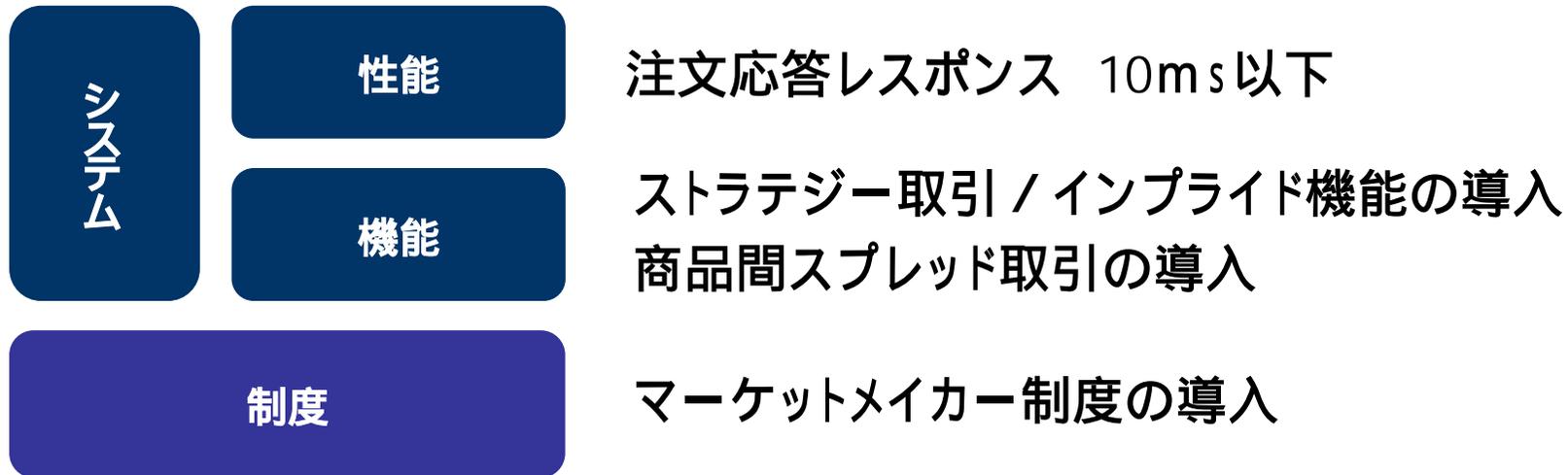
LiffeにTOPIX先物上場 10月18日(予定)

- ・実質21時間取引
- ・夕方2.5時間の重複時間で円滑な流動性の移行ができます
- ・Liffeで採ったポジションは翌日自動的に東証に移管されます(高い利便性、東証市場の流動性確保)



26. 先物取引のTdex+システムへの移行(2011年秋)

- 先物取引を2011年秋を目途にTdex+システム(Liffe Connect®)に統合



システム刷新による利便性の向上だけでなく、
マーケットメイカー制度の導入により流動性の向上を目指します

3 . 今後の取組み

27. 今後の取組み

クリアリング機能の強化

OTCデリバティブ取引の清算提供

システムの外販

arrowheadのアジア新興国市場への販売

海外企業の上場誘致

韓国企業を初めとするアジア企業の東証市場への上場誘致

データ配信の拡充

ヒストリカルティックデータ (2010年12月)

TOPIX 1秒配信 (2010年9月13日)

TOPIX 高速配信 (2011年2月予定)

ToSTNeTシステムの改善

ToSTNeTシステムのレイテンシー向上 (取引所外取引への対応)